

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60-157674

⑬ Int. Cl.⁴

B 65 D 83/00
47/20

識別記号

庁内整理番号

6564-3E
8208-3E

⑭ 公開 昭和60年(1985)10月21日

審査請求 未請求 (全2頁)

⑮ 考案の名称 液体用可変定量排出容器

⑯ 実 願 昭59-45228

⑰ 出 願 昭59(1984)3月30日

⑱ 考 案 者 加 藤 啓 育 小田原市扇町3-19-14
⑱ 考 案 者 辻 井 宣 博 横浜市旭区中希望ヶ丘39
⑱ 考 案 者 松 下 義 生 横浜市南区蒔田町841-1, 4-102
⑲ 出 願 人 ライオン株式会社 東京都墨田区本所1丁目3番7号
⑳ 代 理 人 弁理士 高木 正行

⑳ 実用新案登録請求の範囲

- 1 伸縮可能な蛇腹部を有する容器本体と、この容器本体中に収容された内容物を導出する導出口部と、該導出口部と連通し内容物を貯留する貯留部とを備えてなり、該貯留部は内容物排出部と、内容物を前記容器本体内に返送する還流流路と連通する溢流口とを備え、該溢流口はその高さ位置を可変とされていることを特徴とする液体用可変定量排出容器。
- 2 前記貯留部が、前記容器本体の頂部に載置されているものである実用新案登録請求の範囲第1項記載の可変定量排出容器。
- 3 前記貯留部が、その内部に、第1の開口部を周壁に形成された第1の溢流管と、第2の開口部を周壁に形成されかつ前記第1の溢流管の周壁に回動可能に嵌装された第2の溢流管とを備えているものであり、前記第1及び第2の開口部は、第1及び第2の溢流管との相対的回動操作により互いの合致口位置を前記貯留部の深さ

方向に調節しうるものであり、前記合致口は前記還流流路と連通する溢流口を形成しているものである実用新案登録請求の範囲第1項又は第2項記載の可変定量排出容器。

- 4 前記第1の溢流管又は第2の溢流管が、前記溢流口の最高位置より高位置に前記貯留部の内部と連通する溢流導入口を形成されているものである実用新案登録請求の範囲第3項記載の可変定量排出容器。

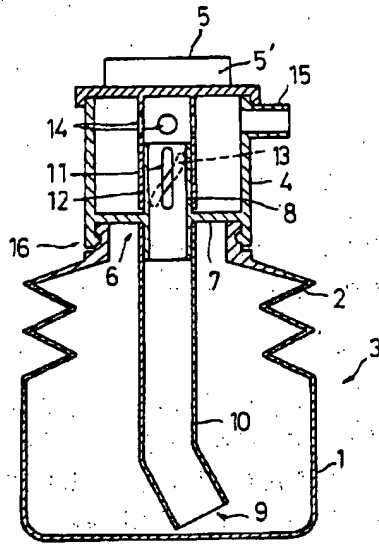
図面の簡単な説明

第1図は、本考案の一実施例の断面図、第2図は別の実施例の断面図である。

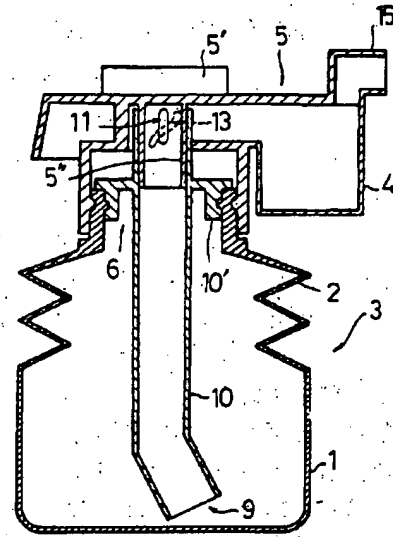
1…筒状部、2…蛇腹部、3…容器本体、4…貯留部、5…蓋体、5'…つまみ、5''…突出管、6…開口部、7…底板、8…連通管、9…導出口、10…導出管、10'…中蓋、11…溢流還流口、12…溢流導入口、13…溢流還流口、14…溢流導入口、15…排出ノズル、16…嵌合部。

BEST AVAILABLE COPY

第1図



第2図



BEST AVAILABLE COPY